

若手研究者問題アンケート結果 大学教員

- 260名（全回答者は518名）。男性204名、女性55名。
- 研究対象地域…日本37.8%、ヨーロッパ34.6%
 - ・日本の比率が低く、ヨーロッパの比率が高い。
- 年齢層ごとの女性の比率…30～34歳25.0%、35～39歳19.7%、40～44歳22.0%、45～49歳32.1%。
 - ・女性の採用の割合に大きな変化はない。
- 任期のある教員…13.5%だが、45歳未満では20.8%（女性は22.6%）。
 - ・任期付きの教員になったあと、任期のない教員になるというパターン。
 - ・任期のある教員のうち、更新の機会があるのは71.4%（女性57.1%）。
 - ・更新可能な回数は1回が最多。
- 将来の進路に関する意識
 - ・現在の職場に残るかどうかは別として、研究職自体は続けたいと考えている人がほとんど。
- 校務の負担感
 - ・「学校運営業務」「授業とその準備」「学生指導」の負担感が強い。
 - ・私立大学教員のほうが校務に対する負担感を強く持っている。
- 研究を進めていく上での困難
 - ・「研究時間が十分に取れない」「時間的制約から学会・研究会に参加することが難しい」。女性のほうが時間的制約を強く感じている。
 - ・任期付きの教員は経済的制約、任期のない教員は時間的制約を強く感じている。
 - ・国立・公立大学教員は経済的制約、私立大学教員は時間的制約を強く感じている。
 - ・研究時間をほとんど持てない女性教員が多い。
- 研究費の調達
 - ・私立大学教員は所属機関から得た資金をもとに研究を進めている。
 - ・国立大学教員は外部資金の獲得に努力し、研究を進めている。
- ハラスメント
 - ・セクシャル・ハラスメントだけでなく、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントの経験においても、女性の比率がきわめて高い。
- 生活状況
 - ・結婚している人の居住形態。単身赴任や両住まい状態の女性が多い。
 - ・仕事との両立の困難（育児、親の介護など）。女性の平均値が高い。